

事名保は日清戦役中當時 百人長として人足頭と兼せり
 其の統制訓練至極宜しきを得たり後、彼の事あり人夫共
 は比日悉服して、~~此~~此より手はゆるし海にたよりなき、長成旅團
 長 ~~也~~ 比志島義想氏も大く感服せしむる是れ其の保の
 秋分躬然の徳也人夫の信頼を得た爲である、他は千之多摩
 水その年牛と取りに決して此の骨法は直ちに適用せんに
 には事いふい。よしかれ悪かれとも舟帆果は難事此とせ
 られよべく引廻して、流急流から、因形体は凝結せしめたるは
 彼の力である。現在には矢張り政友会長の長老村野常
 右衛門氏が老練保に代つて其の地位を占めてゐるが、彼の
 所望家にして確固たる信念と、断年たる勇気とは、壯士輩が
 出陣の的となり、馳に乗任便に彼の意のまゝである。

前記之團體の壯士と爲く村野の指揮下に在り、鉄心には世
 餘名の壯士あり、赤心(團)亦ほ同敷にして、自國一人守同じく
 廿餘名の壯士を伏せし置く。彼等は事あるは、疾風の如く現
 れ出で、二小隊運命の和護をせたり、當局の取締に聲援し
 たり、其れに依つて多量の利益を得たりし。亂暴(連東)
 血を見ても、一時の快とありしもの、如し。彼等は方信(連東)
 が何の爲にか、社(守)主義(守)モウツレが何だか、すつぱり(守)が
 解らぬ、乱酒、養を振つて押し廻る女に返すなり。志(守)の
 此(守)比(守)國(守)守(守)に(守)命(守)せし(守)群(守)馬(守)の(守)一(守)壯(守)士(守)君(守)、(守)求(守)信(守)を(守)守(守)
 せ(守)こ(守)回(守)く、(守)此(守)比(守)は(守)國(守)守(守)仕(守)る(守)矣(守)故(守)、(守)何(守)の(守)意(守)な(守)る(守)が(守)す(守)つ(守)ぱ(守)り(守)判(守)ら(守)ぬ(守)
 彼(守)本(守)人(守)の(守)解(守)義(守)に(守)よ(守)れ(守)ば、(守)國(守)守(守)と(守)は(守)求(守)を(守)出(守)で、(守)馳(守)が(守)事(守)と(守)と(守)力(守)
 り、(守)聞(守)く(守)者(守)咄(守)たり(守)し(守)と(守)い(守)ふ、(守)如(守)斯(守)當(守)時(守)の(守)壯(守)士(守)は(守)る(守)は(守)四(守)軍(守)也(守)